

令和7年度 東京都立墨東特別支援学校 経営計画

令和7年4月28日 校長決定

1 目指す学校像 「子供たちの夢や願いを実現させる学校」

将来のライフステージを見据えつつ、児童・生徒の障害特性や疾病等の実態に応じた日々の専門性のある教育実践と切れ目のない教育を構築することで、心豊かに自分らしく生きる力を培い、地域社会の自立した一員として社会参加し、共生社会を創出する障害者の代表となる児童・生徒の育成を目指す。

(1) 目指す学校像 「子供たちの夢や願いを実現させる学校」

目指す学校像を実現するために、以下の教育目標を掲げる。

(2) 教育目標

- やさしい心を育み、元気な体をつくる
- 意欲をもって進んで学ぶ
- 自分で考え、責任をもって行動する
- みんな仲良く協力する

(3) 校訓

「好奇心・探究心・向学心」 ※個々の実態に即して「知ろう・深めよう・学ぼう」を併用する。

2 中期的目標と方策（令和5～7年度）

来る40周年に向けて令和5～7年度の3年間で「学校教育基盤充実期」と捉え、中期目標を以下に定める。

(1) 目標 → ①～⑥、(2) 方策 → 策

目標① 次世代教職員への継承

策：急速に進む世代交代を見据え、若手教員等が今後の指導と学校運営を担えるように指導計画の蓄積やシステム整備を進め、効率的に継承できるようにする。

目標② 専門性の内部留保

策：専門性の蓄積と共用財産化できるシステムを構築する。そのためには専門性向上のために招聘する外部専門員についても学校ニーズに即した人材を聘する。

目標③ 教育内容の絶え間ない更新

策：社会に開かれた教育課程の下、社会の変化を教育に反映させて内容刷新を図る。そのためには外部講師の先進性や企業のテクノロジーとその活力を積極導入する。「学校から社会へ」と「社会を学校に」

目標④ 新学習指導要領に基づく教育課程の開発

策：急速な世代交代が進む中、個人の経験と勘に頼らず指導できるように、学習指導要領及び文科省著作教科書に基づき、単元計画等の指導計画を開発・共有できる仕組みを構築する。

目標⑤ 人権尊重を基盤とした相談支援体制の充実

策：特別なニーズをもつ児童・生徒の人権を最大限に尊重し、真摯に対応・支援できるように全教職員の資質向上を図る。また、培った相談・支援の専門性を地域支援に最大限活用できるように体制を充実させる。

目標⑥ 働きやすく効率的なビジネスシステムと環境の構築

策：業務の見直し及び最新ビジネスツール投入等により効率化を目指したシステム改善を推進する。

BOKUTOU School Plan R7

■ 令和7年度の取組目標と方策 ■ ※肢体不自由教育部＝S、病弱教育部＝Bと略称

(1) 教育活動の目標と方策 (2) 最重点目標と方策〔数値目標を明示〕

最重点目標1 墨東生が一体感と誇りをもてる教育活動等の展開

数値目標 保護者を含む全関係者評価「墨東としての良さを創出している」 ≥ 80%

方策 墨東生としての誇り実感プロジェクト

＜主管：主幹会、教務部、生活指導部、情報部、サポートデスク＞

- ① 学校一体感醸成による健全育成（芸術活動、読書活動、スポーツ活動等への取組み）
- ② 学校の良さ発信（HP更新とX発信の一層強化・リーフレット等のデザイン刷新による広報強化）
- ③ 学校環境の整美／墨東きれいプロジェクトⅢ（教育環境・職場環境改善＝教え方改革・働き方改革の推進）

最重点目標2 効率的・機能的な学校組織の確立による組織力向上

数値目標 委員評価「ライフ・ワークバランスを踏まえた業務改革を推進している」 ≥ 80%

方策 運営効率化プロジェクト：3年次 ＜主管：主幹会、教務部＞

- ① 知的障害の各教科の目標及び教科書に準拠した指導計画作成と実践例の共有化による効率化の推進
- ② 業務改善提案の積極採用による効率的な方法の導入（例：多機能印刷機）や業務の見直し
- ③ 主幹・主任教諭等の職責や看護師等の専門性を踏まえた業務目標の明確化（業務ミッション一覧）
- ④ 全教職員の業務量平準化と効率化を目指すための分掌業務の再編に基づく担当業務の再配分

最重点目標3 専門性ある人材を活用した教育の充実

数値目標 委員評価「専門性ある人材の活用が教育充実につながっている」 ≥ 80%

方策 専門人材活用プロジェクト ＜主管：主幹会、研究育成部＞

- ① 学習指導アドバイザーを人材活用した個別学習への継続的支援による指導改善（知1・2段階の指導重視）
- ② 発達支援アドバイザーを人材活用した授業改善及び墨東生への行動支援の推進
- ③ 「なんでも相談」リストの充実による校内専門人材を結ぶ人的サポートネットワークの活性化
- ④ 学校介護職員・病弱教育支援員等の職の専門性スキルアップ研修による協働の質的向上

最重点目標4 授業力の向上 ☆個別学習等の力量形成

数値目標 関係者（委員＋教員）評価「基礎学力の向上を図り、学習の説明を工夫している」 ≥ 80%

方策 基礎学力向上指導を含む授業力向上プロジェクト＜主管：教務部、研究育成部＞

- ① 外部専門員を活用した学習指導要領への的確な対応（基礎段階の個別学習の日々の積上げ徹底の継続）
- ② 外部専門員による個別学習への継続的支援による指導改善の拡大（増額申請対応）※再掲
- ③ 外部専門員・指導教諭等を活用した指導実技型体験型授業力向上研修の実施（全教職員対象研修）
- ④ 指導説明力の向上（指導根拠を明示した授業参観ガイドの事前配布、墨東生向けに工夫した通知表）
- ⑤ 授業者支援会議でのノウハウ蓄積による改善策の共有（授業改善ハンドブック作成と若手研での活用）

最重点目標5 専門性の発揮・向上による特色ある教育の推進

数値目標 委員評価「専門性を発揮した教育活動が展開されている」 ≥ 80%

方策 専門性発揮プロジェクト ＜主管：主幹会、情報部、生活指導部＞

- ① 文科省採択校：DXハイスクール2年次：「グローバル社会で活躍できる情報人材を育てる学習」の展開
- ② GIGA 端末等を含めたデジタルを活用した教育の一層の充実(分身ロボット、プログラミング、生成 AI 等)
- ③ 全校読書活動による読書習慣の定着及び探究学習他での授業活用拡大
- ④ 意欲ある墨東生に対する検定挑戦等への意欲喚起・試験準備等の学習支援、受験支援と補充指導
- ⑤ R7都指定事業「デジタルを活用した芸術教育」の展開

最重点目標6 墨東生が安心して学校生活を送れる生活指導体制の構築

数値目標 関係者(保護者+委員)評価「防災対応が充実している」 ≥ 80%

方策 安心・安全プロジェクト <主管：生活指導部、教務部、サポートデスク>

- ① 万一の体調急変等に備えた緊急時対応訓練の徹底及び安全確保に関する専門研修の実施
- ② 教育課程の変更に伴う学習活動の在り方の検討継続と円滑な移行(宿泊学習、防災訓練等)の継続
- ③ 相互理解に基づく墨東生の一体感醸成及び健全育成推進=全墨東生参加の共同制作や作品相互鑑賞の定着
- ④ 避難訓練時の活用による危機管理マニュアル実用性の向上、総合防災訓練等の強化と取組み発信
- ⑤ 安全の徹底及び万一の事故を教訓とした再発防止策徹底(保護者への事故再現と説明、再発防止訓練)
- ⑥ いじめ・体罰防止、自殺防止教育推進委員会を活用した早期把握と面談を活用した積極的予防の推進

最重点目標7 感染症予防の徹底を含む安心できる保健体制と安全で美味しい給食を提供できる体制の構築

数値目標 全関係者評価「感染予防も含め、安心・安全な体制が構築されている」 ≥ 80%

方策 保健・医療的ケア・給食の充実プロジェクト <主管：保健部>

- ① 感染予防対応の徹底を含めた健康教育の推進(衛生的な環境の確保と情報発信)
- ② 医療的ケア児支援法を踏まえた専用通学車両看護師乗車率の一層向上、校外学習時の看護師付添拡大、保護者の就学時及び呼吸器及び注入に伴う校内待機の縮減を含めた学校対応の一層の充実
- ③ 初期食シリンジ注入や形態食提供による個に応じたケア及び摂食指導充実及びアレルギー事故防止徹底
- ④ 個に応じた安全で美味しい給食提供と楽しい給食タイムの実現(例：リクエスト食)と試食会の実施

最重点目標8 校内外フロント「特別支援教育サポートデスク」設置による教育相談・進路指導・地域支援の充実

数値目標 保護者評価「進路指導や進路情報、地域支援の内容を適切に伝えている」 ≥ 80%

方策 地域支援充実プロジェクト <主管：サポートデスク>

- ① 入学相談を含む教育相談や地域支援、進路等に関する情報の一元化を基盤とした組織対応の徹底
- ② <病院内教育> 病院と連携した転籍前教育相談支援、分身ロボット活用も含めた復学支援の推進
- ③ 組織的な進路指導体制の構築に基づく的確な実施(実習(遠隔を含む)指導、進学・就労への丁寧な対応)
- ④ 卒後・生涯学習支援(校内販売機会の提供による就労実像の理解促進、業務習熟への支援、同窓会等支援)
- ⑤ 学校PTA及び各種別の広域PTA(全国・関東ブロック・都組織を含む)活動への協力や大会派遣協力

最重点目標9 ライフ・ワークバランスを踏まえた、働きやすく魅力的な職場環境の創出

数値目標 関係者(委員+教員)評価「働きやすく効率的な執務環境の整備が進んでいる」 ≥ 80%

方策 職場環境改善プロジェクト <主管：主幹会、教務部、経営企画室>

- ① 学校環境の整美(墨東きれいプロジェクトⅢによる働きやすい環境づくり(40周年に向けた基盤整備))
- ② 業務のOA・DX推進(例：高機能プロジェクターや大型モニター等のDX配備品の効果的な活用)
- ③ 職場環境の改善(リフレッシュ資源としての出張販売等の通年導入、セルフスイーツ、自販機の継続)

- ④ 教職員のメンタルヘルスケアとライフプラン構築へのサポート（産業医面談、ミニセミナー他）
- ⑤ 夏季休業期間中に「連続休暇取得を奨励する期間」の継続「しっかり休もうリフレッシュ 16days」

最重点目標 10 研究と修養目標：ライフ・ワークバランスを踏まえた個々の研鑽奨励

数値目標 教職員の自己評価 「業務に生かせる研鑽ができた」 $\geq 80\%$

方 策 日々の授業改善と自己研鑽の成果を発信プロジェクト <主管：研究育成部>

- ① 授業者支援会議の効果の徹底追究（若手：授業改善力の育成、経験者：支援力の向上）
- ② 授業者支援会議で得たノウハウ蓄積による改善策共有（授業改善ハンドブック作成・活用）
- ③ 専門家・指導教諭等を活用した指導実技体験型授業力向上研修の実施（全教員対象研修）※再掲：最重点4①
- ④ 研究大会への積極派遣や教師道場等への推薦及び成果還元レポートの共有による研鑽意識の活性化

墨東特別支援学校教職員としての行動指針

I 教職員個々の基本的行動指針 <主幹会、いじめ・体罰、自殺防止教育推進委員会>

- ① 全教職員として墨東生の基本モデルとなる行動指針
 - ◆体罰根絶を大前提とした人権尊重の推進（クリーンデスクを含む個人情報保護の徹底）
- ② 全墨東スタッフ・ビジネスコード（下記）を踏まえた誇りある行動実践
 - ◆マナー：教育公務員としての順法と実践 ◆スピリット：教育理念の理解と共有
 - ◆ルール：組織内システムの尊重と共有 ◆ライフ・ワークバランス視点をふまえた業務の遂行
 - ◆バトン：次年度担当者の業務負担縮減に繋がる「引継ぎ資料作成」「個別指導計画作成」の率先

II 教職員個々が経営参画するための具体的行動指針 <主幹会、研究研修部>

数値目標：教職員自己評価＜自己申告書＞4能力開発に具体的取り組み内容と成果と達成度を申告＞

方 策：各自で①～⑤をプランニングし、進行管理

- ① 若手教員：指導の改善力向上 ⇒ 授業者支援会議への参画
- ② 経験教員：支援・助言力の向上 ⇒ 授業者支援会議への支援者としての参画
- ③ 全教員：説明力の向上（説明責任履行）⇒ 授業参観ガイド作成・墨東生向け通知表の工夫
- ④ 全教員：所持免許の教科指導力の向上 ⇒ 免許所持教科に関する研究授業や教科研修への参加
- ⑤ 全教員：進路指導・生活指導力向上 ⇒ PTA や部活動等地域活動に支援者としての参加（年1回以上）
- ⑥ 全教職員：接遇力・対応力の向上 ⇒ 接遇・相談等のスキルアップ（講習会受講等）